

2019年12月度のトピックス

12月28日

三室戸にOB集合、軟式で対抗戦

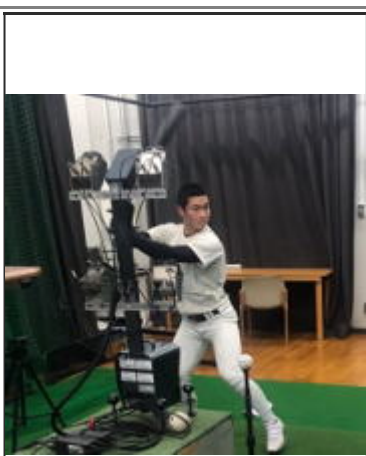


卯瀧監督時代の1期生・末永大将OBが周辺のOBに声を掛け、三室戸グラウンドでOB戦が行われた。軟式で6回制。様々な出で立ちで、上はセンバツ初出場時のメンバーから、下は大学2回生まで。試合が始まると真剣モードで、中には軟式でライトフェンスを堂々と越える本塁打も。最後は里井現監督が登場し、センター前ヒット。

石川前部長からは「夏で部長を降り、これからはOBたちにもどんどん情報を発信していきたい。まずはそのためのグループLINEを立ち上げたい」と話があり、OBからは「来年も是非OB戦をやりたい。そのためにも輪を広げたい」と声が上がった。

12月23日

アシックス工学研究所で本格的測定を



この日は貸し切りバスで、神戸にあるアシックス工学研究所へ向かい、一日「体力測定」「栄養学講義」などを受けた。17年に学校法人立命館とアシックスジャパンは、スポーツを通じて未来を支える人材育成に向けた連携・協力を進める包括的連携交流協定を結んでおり、その一環として今回、西田部長がアシックスと協議し、実現したもの。

前日深夜にアメフト応援から帰着した部員たちは、その疲れも見せることなく、朝から体力測定だけでなく、スイングスピード、球速、投球動作解析などを受け、午後からは栄養講習会、スパイク説明会に参加した。どれも最新の設備と理論に基づいたものであり、午後に活かしていきたい。

12月22日

アメフト、初の日本一に夏への勇気を貰う



22日(日)13時から横浜スタジアムで第50回全国高等学校アメリカンフットボール決勝戦(クリスマスボウル)が行われ、硬式野球部2.3年部員が夜行バスで応援に駆けつけた。昨年は関西での実施だったが、今年は首都圏のため、完全にアウェイ。相手校の大応援団に圧倒されるも、持参した太鼓とメガホンで応戦した。

昨年と同カードで、昨年は終了間際に逆転を許したが、今年は第2クォーターで逆転すると、貫禄の試合運び。見事初優勝を成し遂げた。帰りのバスの中でも、興奮は収まらず、「硬式野球部も夏へ向けて頑張らねば」と決意を新たにしました。

12月19日

駅伝、アメフト壮行会でエールを送る



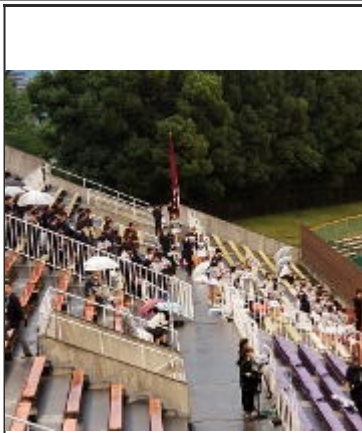
22日に都大路で行われる第31回全国高校女子駅伝、横浜スタジアムで行われる第50回クリスマスボウルの激励会が、19日の始業前に大ホールで行われ、硬式野球部3年の川崎が陸上部に、谷がアメフト部にエールを送るリードをした。「甲子園のアルプスでの応援のように」と説明すれば、客席の高校生はすぐさま反応。一発本番で見事なエールとなった。

当日は1年部員が駅伝を、2.3年部員がアメフト応援へ駆けつける予定。また数名が吹奏楽部定期演奏会を鑑賞する。夏の応援のお礼もかねて、当然の行動である。

2019年10月度のトピックス

10月18日

里井監督がネット解説、立同戦を観戦



中間テスト最終日はグラウンドで軽く身体を動かした後、1.2年50名でわかさスタジアムへ移動。16時半からの立同戦を観戦した。

優勝には絡まず、天候もあいにくの小雨のため、観客は少なかったが、前日にドラフト指名された立命館大学のエースが登板。そのスピード感に圧倒された。OBの出場は百田風太郎内野手のみであったが、ネット裏には里井監督がネット解説者として招かれていた。

試合は最後まで観戦できなかったが、大いに勉強になったはずである。

10月13日

感謝!! ここにも嬉しいサポーターが



この日は夕刻から生徒寮で保護者会総会。夜には年に一度のスタッフと保護者の懇親会が行われた。

ここ数年、懇親会の会場となる大広間にサプライズのディスプレイが。「甲子園出場おめでとう」というメッセージと共に、先の選手権での様々な写真が。これはこの店の料理人の方が「大の立宇治野球部ファン」ということで、自ら撮影した写真を飾って歓迎してくださったもの。夏の試合は京都大会から夏の甲子園までほぼ全試合ベンチ上に陣取り、撮影されたとか。これを機会にスタッフ・保護者の前に顔出し、挨拶。「福知山成美に勝った時点で、甲子園を確信しました」と語り、スタッフに囲まれて記念撮影を行った。

10月11日

夏の感動を90分に編集し、学内で公開



先の選手権京都大会の京都大会6試合、選手権大会2試合を90分間にまとめ、中学校教員室ラウンジ、生協食堂のモニターで、公開されている。

編集は石川顧問で、保護者が作成したスライドショーから京都大会初戦から4回戦までの3試合分を、準々決勝から決勝までの3試合分はKBS京都を、甲子園での開会式と2試合はNHKをそれぞれ得点シーンだけを抽出し、編集した。

学校に公開を提案したところ、「是非とも」と言われ、当面は常時流される。職員や教員の中には「このモニターの前を通るとしばらく見入ってしまう」という声も。

2019年9月度のトピックス

2019年度 秋季京都府高等学校野球大会 速報

9月21日

学園祭でお手伝い夏の感謝の言葉に恐縮



学園祭最終日の学校企画では、ここ数年、総合受付と校舎入り口のスリッパ売りが硬式野球部の担当となっている。保護者や一般の来客を温かく迎える大切な役割だが、今年は丸坊主が目印となっているのか、「あら??I 野球部の部員さん?? 甲子園大会では素晴らしい試合を見せていただきました」と声がかかることも。

石川顧問も、赤いメガネが目印なのか、「この夏は先生のお姿をテレビで何度も拝見しました。感動をありがとうございました」と声をかけられた。「全ては部員たちのおかげです。ありがとうございました」と返すも、恐縮の限りであった。

9月14日

保護者会主催、夏の祝勝会を実施



先の選手権大会出場の祝勝会が、この日の夕刻、パルティール宇治で行われた。センバツ出場の際には、保護者会主催の激励会が行われているが、選手権は京都大会優勝決定から、本大会が短いため、この時期に実施されたもの。

来賓に山仲教育後援会長、石田保護者会長、チャールズ・フォックス校長らを招き、盛大に行われた。宴の終盤には保護者力作のスライドビデオに感動。

締めくくりに里井監督が謝辞と、秋季大会への決意を述べた。

会后には、全員集合の記念写真も撮影された。

9月1日

新チームの実力は?? 夏休み最終戦

令和元年度

秋季京都府高等学校野球大会 速報

2次戦

4月23日(月祝) 2回戦 対京都翔英 峰山球場

僅か2安打、3塁踏めず完敗

- 京都翔英 011 000 14=7
- 立命館宇治 000 000 00=0

(8回コールド)

【京】池島、大越、植田-森田

【立】荒井-浅野

▼本塁打 大原(京)

▼3塁打 大原(京)、和田(京)

【寸評】立命館宇治は3回ずつ継投する京都翔英投手陣に、僅か2安打に封じられ、3塁すら踏めずにコールドで完敗した。2安打4四死球で、残塁も5。チームが窮地に追い込まれた時に生きるのが「経験」であるが、夏の甲子園経験者6名は全員が同時に沈黙。相手に果敢に向かっていったチャレンジ精神は失せ、いつのまにか格上相手にも受け身になってしまっていた。

先発した荒井は夏までは投球練習すらしていない外野手。急遽、投手陣の中心に据えなければならなかったが、投手としてのスタミナは未知数であった。ガス欠となってきた終盤にそれが顕著に表れた。

京都翔英との立ち向かってくる戦いぶりに、一方的にやられてしまった。

「夏の経験者が5名残る」と周囲の評判だけが先走った結果となった。

【新】	10	外	荻野 仁	1	南陵	ボーイズ	福知山
【旧】	10	外	久保 浩志	2	高蔵寺	ボーイズ	愛知守山

4月16日(月祝) 1回戦 対大谷 太陽が丘球場

7回5安打集中で一気にコールド

- 大谷 000 000 1=1
- 立命館宇治 003 200 3=8

(7回コールド)

【大】小林-田中

【立】荒井-浅野

▼本塁打 浅野(立)

▼2塁打 岡田(立)、田中、小林(大)

【寸評】初回1死1.3塁、2回無死1.2塁のチャンスを逃した立命館宇治は、3回先頭の岡田の右中間2塁打と死球、失策で得た無死満塁の好機に、5番・宮下が1.2塁間を破るタイムリーを放ち、2点を先制した。続く満塁から押しだし死球で、計3点。4回には、4番浅野がスコアボード直撃の2点本塁打で加点した。

1点を返された7回裏には1死1.3塁から、7番・笠浪の犠牲フライ、8番・曾谷が三遊間、9番・細川が右前打。最後は岡田が中前へタイムリーを放ち、7点差とした。

公式戦初先発の荒井は普段通りの投球を披露し、6回まで1安打1四球と完璧な内容で、守備のリズムを作った。7回には連続長打で1点を献上したが、球速は130数キロながら、丁寧な投球に徹した。

立命館宇治は2回戦、9月22日(日)10時から、峰山球場で、京都翔英と対戦する。



写真は公式戦初登板の荒井豪太(2年)

登録メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	野寺 快	1	精華西	ボーイズ 滋賀南郷
2	捕	浅野 彰久	2	精華西	シニア 奈良
3	一	大住 秀太	2	城陽	シニア 京都木津川
4	二	細川 淳之介	2	立命館宇治	中学野球
5	三	岡田 蒼司	2	彩都西 (大阪)	ボーイズ 箕面
6	遊	星川 健太	2	神久呂 (静岡)	ボーイズ 浜松
7	左	宮下 力	2	三郷 (奈良)	その他 レッドスター-BBC
8	中	荒井 豪太	2	都跡 (奈良)	シニア 奈良西
9	右	笠浪 悠生	2	立命館宇治	中学野球
10	外	久保 浩志	2	高蔵寺 (愛知)	ボーイズ 愛知守山
11	内外	植村 博斗	1	松原六 (大阪)	ボーイズ 中百舌鳥
12	内	岸本 健太郎	1	桜井 (奈良)	シニア 奈良磯城
13	内	江本 舜	2	郡山東 (奈良)	ボーイズ 生駒中央
14	内	西島 宗汰	1	立命館宇治	中学野球
15	外	曾谷 康平	2	大社 (兵庫)	シニア 北摂
16	捕外	三浦 仁	1	柳川 (大阪)	シニア 北摂
17	外	大河内 瞭介	1	京教大京都	ボーイズ 京都嵐山
18	捕	松岡 歩武	2	立命館宇治	ヤング 京都相楽
19	投	白田 晴宗	1	四條畷学園 (大阪)	シニア 東大阪
20	投	吉田 愁	2	枚岡 (大阪)	その他 レッドスター-BBC

.member.

[硬式野球部 TOP PAGE](#)

2019年8月度のトピックス

第101回全国高等学校野球選手権 特集

8月14日

岡田新主将で新チームが即スタート



選手権大会は終わった。その日はホテルに宿泊したが、翌日朝には三室戸グラウンドへ戻り、校長・副校長らに迎えられ、その後簡単に解散式。その後、新スタッフを決めるミーティングを持ち、新チームがスタートした。

主将 岡田 蒼司 (箕面ボーイズ出身)
副主将 浅野 彰久 (奈良シニア出身)
主務 細川淳之介 (立命館宇治中出身)

尚、石川部長はかねてから表明していた通り、今大会で部長職を退き、顧問として今後は野球部を支え、西田新部長が誕生した。

8月8日

初戦勝利の翌日は買い物、プールで休養



勝利の翌日は休養日と決めていたが、この日は宿舍メンバー全員で朝から甲子園球場へ。試合を観戦する者やお土産を買う者などそれぞれだが、高校野球コーナーの校名入りグッズは「立命館宇治」がほぼ売り切れであることがわかった。初出場校は人気があるというのは聞いたことがあるが、実は開会式の時にはもう売り切れ状態であった。部員たちは「これは自分たちの親が買い占めた」と苦笑。

午後からはホテルへ戻り、ほぼ全部員がプールへ。その後は温泉で長時間楽しむ者、昼寝をする者と様々。んん?? 宿題は??

8月4日

過去最少人数の24名で、宿舍入り



朝から秋田中央の投手を想定した打撃練習を行い、午後から始まった新チーム練習では、甲子園メンバーは出発準備。今回はメンバー18名と記録員、その他はボールボーイ・データ班5名と過去のセンバツと比べても最少人数。修学旅行のような思いで作りはなく、それぞれが貴重な役割を担う。

人数が少ないので行動もコンパクト。もともと練習はホームグラウンドに帰って行くことを基本としており、特に問題はない。

8月3日

抽選会、注目度の高さを改めて実感



午前中に練習を終えてメンバーは、午後から京阪電車でフェスティバルホールへ移動。会場に到着して驚くのは報道の数。主催の朝日新聞だけでなく、各都道府県代表の地元新聞社やローカルTV局。何度もカメラを向けられ、何度も同じポーズを。

カメラの山ができているなと思ったら、知る人ぞ知る・注目の選手だったり。

抽選本番では比較的早い段階で、初戦の相手が決まったが、立命館宇治の前に陣取っていた近江は最後の最後に東海大相模との対戦が決まった。

近江とは明日から同宿。早速楽しそうに話をする両校の選手であった。

8月2日

厳選30名で、守備を中心に甲子園練習



午後1時40分から20分間の甲子園練習が行われた。京都大会を戦い抜いた20名に、新チーム以降の経験値も計算し、さらに10名を指名し、合計30名で参加。ホームの三室戸グラウンドで行われたシュミレーションは数回。それでも球場内に踏み入れてから、変更を余儀なくされることも。

ほぼ予定通りに守備を中心に汗を流し、最後は投手陣3名がマウンドから投球練習。その感触を確かめた。

あっという間の過ぎたが、貴重な経験となったはずだ。

8月1日

金メダルを胸に、表敬訪問を実施



夏の優勝から3日が経った。グラウンドには取材、お祝いに駆けつけて下さる方が次々と。

この日は京都府庁～朝日新聞紙社～京都新聞社と表敬訪問を行い、最後は立命館大学の朱雀キャンパスへ。常任理事会の冒頭にお邪魔し、大きな拍手をいただいた。

また夕刻からは本校大ホールで壮行会が行われ、宇治市長、京都府高等学校野球連盟会長、同理事長にお越しいただき、激励の言葉を頂戴した。

次々と迫り来る甲子園行事。明日は午後から甲子園練習である。

[硬式野球部](#) [TOP PAGE](#)へ

第101回全国高等学校野球選手権 速報

4月8日(火) 2回戦 対星稜(石川県代表)

26回2死から3連打で3点

○ 星 稜 010 103 010=6

● 立命館宇治 000 003 000=3

【星】萩原、寺西、奥川、寺沢-山瀬

【立】高木-浅野

▼2塁打 内山、福本2(星)

【寸評】立命館宇治は0-5とリードされた6回、2死1.2塁から5番・荒井が三遊間を破って1点を返すと、続く6番・古賀が中前へ弾き返し、2点目。ここで高校BIG4の相手エースを引きずり出し、続く7番・今野が三遊間を破って3点目を入れた。前半5回まで1安打に封じられていただけに、この回に発揮した集中打は見事であった。

先発したエース高木は1回戦ほどの制球力はなく、高めに浮いた球を痛打された。しかし味方の援護で2点差なった7回には2死満塁のピンチを渾身の三振で切り抜けるなど、気迫を示した。

ディフェンスはこの試合も無失策。結局京都大会から通じて8試合で僅かに3失策と、高木を盛りた堅守と集中打はこの日も遺憾なく発揮された。

37年ぶり3度目の夏に、甲子園連敗を阻止する歴史的勝利を挙げ、優勝候補を苦しめた今大会は賞賛に値する。



写真はエースからタイムリーヒットを放った今野優斗(3年)

4月7日(水) 1回戦 対秋田中央(秋田県代表)

高木、被安打3の完封劇

● 秋田中央 000 000 000=0

○ 立命館宇治 000 000 10x=1x

【秋】松平、目黒-野呂田

【立】高木-浅野

第101回全国高等学校野球選手権 京都大会 速報

4月28日(日) 決勝 対京都国際 わかスタジアム

終盤の鮮やかなサヨナラV

- 京都国際 110 000 000=2
- 立命館宇治 000 000 021=3x

【京】酒井-釣

【立】高木-浅野

▼3塁打 早(京)▼2塁打 森下(京)古賀、上田(立)

【寸評】序盤に2点先行された立命館宇治は、京都国際エースの尻上がりに良くなる投球の術中にはまり、7回まで1安打の0行進。しかし8回に先頭の3番・上田が中前へチーム2本目の安打で出塁すると、4番・浅野が右前へ運び、1.3塁。盗塁で2.3.塁とすると、5番・荒井が追い込まれながらも犠牲フライを放ち、ようやく1点を返すと、続く6番・古賀が右中間へ同点タイムリーを放ち、試合を振り出しに戻した。

続く9回には1死から1番・宮下が左前打で出塁。2番・岡田が送った2死2塁から、上田が追い込まれながらも渾身の左越えサヨナラ打を放った。

先発した高木は3回までに4安打され、2点を先行されたが、4回以降は無安打で何とか苦心の投球を重ね、同点とした9回2死満塁のピンチも気力の投球で、その裏のサヨナラを呼び込んだ。

立命館宇治は旧宇治高校の第64回大会以来、実に37年ぶりに頂点を極めた。

その間、準優勝7度。まさに「七転び八起き」、シルバーコレクターという名前を返上した。



写真はサヨナラの歓喜

4月26日(金) 準決勝 対龍谷大平安 わかスタジアム

三度目の正直、高木が雪辱の快投

- 立命館宇治 002 010 011=5
- 龍谷大平安久 010 000 100=2

【立】高木-浅野

【平】野澤-多田

▼2塁打 今野(立)

【寸評】相手エースの制球難から、毎回のようにチャンスを得ながら、なかなか先制点が奪えない立命館宇治は、7回先頭の宮下が1.2塁間を破って出塁すると、2番・岡田が丁寧に送り、1死2塁。3番・上田の内野ゴロが相手失策を誘い、待望の先制点を得た。

8インニングの攻撃で、先頭打者が出塁すること実に7度。しかしスコアリングポジションに走者を進めながらも相手エースの踏ん張りで、攻略しきれなかった。

先発した高木は京都大会から比べても、最高の出来で、秋田中央打線を封じみ、唯一のピンチ7回の無死満塁も併殺で切り抜けた。

立命館宇治は春夏を通じて、甲子園初勝利を挙げた。

2回戦は高校BIG4のエースを擁する星稜(石川県代表)と対戦する。



写真は大会で完封劇、高木要(3年)

大会登録メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	高木 要	3	桂	中学野球
2	捕	浅野 彰久	2	精華西	シニア 奈良
3	一	岡田 蒼司	2	彩都西 (大阪)	ボーイズ 箕面
4	二	今野 優斗	3	瓦木 (兵庫)	シニア 西宮
5	三	古賀 風地	3	立命館宇治	中学野球
6	遊	星川 健太	2	神久呂 (静岡)	ボーイズ 浜松
7	左	中村 滉成	3	石橋 (大阪)	シニア 豊中
8	中	荒井 豪太	2	都跡 (奈良)	シニア 奈良西
9	右	上田龍一郎	3	三田学園 (兵庫)	ボーイズ 三田
10	投	森井 舜也	3	二名 (奈良)	ボーイズ 枚方
11	投	森本 晃太郎	3	下津第二 (和歌山)	シニア 有田
12	捕	吉村 仁	3	守口第一	ボーイズ 守口
13	捕	東部 光希	3	玉手 (大阪)	シニア 柏原
14	内	柳原 悠輝	3	寝屋川第一 (大阪)	ボーイズ 寝屋川
15	内	鈴木 康人	3	立命館宇治	中学野球
16	外	宮下 力	2	三郷 (奈良)	その他 レッドスター-BBC
17	内	大住 秀太	2	城陽	シニア 京都木津川
18	外	谷 樹彦	3	天下茶屋 (大阪)	ボーイズ 堺中央

▼ 2 塁打 長畑、水谷(龍)岡田(立)

【寸評】



写真は同点のタイムリーを放った岡田蒼司(2年)

4月7日(火) 準々決勝 対福知山成美 わかスタジアム

またも集中打!! 8回7安打で再逆転

○ 立命館宇治 400 000 150=10

● 福知山成美 010 021 320=9

【立】高木-浅野

【福】橋本、小橋、池田-原

▼3塁打 荒井(立)、井戸(福)

▼2塁打 佐藤(福)岡田2(立)

【寸評】 2点を追う立命館宇治は8回、1死1塁から9番・星川が右前打でつなぐと、代打・宮下が1. 2塁間～2番・岡田1. 2塁間～3番・上田が死球の後、4番・浅野、5番・荒井、6番・古賀が三遊間を破り、7番・今野の1. 2塁間を含めて、7安打を集中し、一挙5点と再逆転した。今大会、完璧な投球の福知山成美エースを終盤捕らえた攻撃は鮮やかであった。

試合は初回到1死満塁から荒井が1塁線を破る3塁打で3点、続く今野が三遊間を破り加点した4点のリードでスタートしたが、福知山成美のクリーンアップを中心とする強力打線に徐々に追い上げられ、7回について勝ち越しを許す展開となった。

先発した高木の調子は決して悪くなかったが、福知山成美の打力がそれを上回っていた。高木は18安打を浴びながらも、何とか9回の2死1. 3塁のピンチを切り抜け、勝利をもたらした。

立命館宇治は2年連続ベスト4へ進出。準決勝は26日(金)第1試合、春の甲子園でベスト8へ進出した王者・龍谷大平安の胸を借りる。



写真は粘りの投球を披露した高木要(3年)

4月7日(木) 4回戦 対久御山 わかスタジアム

5回13人攻撃で一気に決着

- 久御山 000 000=0
- 立命館宇治 100 072=10x 6回コールド
【久】奥野、中島、島田、田和-谷口
【立】高木-浅野
▼2塁打 浅野、今野(立))

【寸評】 初回1死2.3塁から4番・浅野の犠飛で1点を先制した立命館宇治は、2回以降、相手投手の緩急の術中にはまりかけた。

勝負を決めたのは5回。先頭の9番・星川が中前打で出塁すると、四球、犠打失策の無死満塁から、3番・上田が中前へ弾き返し、2点を追加。これをきっかけに打線は呪縛が解けたように、相手投手陣に襲いかかり、13人攻撃で7点を追加した。続く7回には浅野の3塁線を破る2塁打から、最後は1番・中村が適時打を放って、10点差コールドが成立した。

先発した高木は初回2死から三遊間安打を許したが、以降はパーフェクト。奪三振2ながら、無四球で2塁すら踏ませぬ快投であった。

立命館宇治は2年連続ベスト8へ進出。準々決勝は20日(日)第2試合で春のセンバツに出場した福知山成美と戦う。



写真は貴重なタイムリーを放った上田龍一郎(3年)

4月7日(日) 3回戦 対京都八幡 あやべ球場

森本、公式戦初登板で完投

● 京都八幡 100 000 200=3

○ 立命館宇治 010 013 03x=8

【立】森本-浅野

【京】三津川-神田

▼2塁打 岡田、浅野、森本(立)、神田(京)

【寸評】 1点を先制された立命館宇治は2回、2死3塁から1番・宮下が左前タイムリーを放ち同点。5回に3番・岡田の2塁打、3番・上田の中前打で勝ち越すと、6回には1死から8番・森本の左翼線2塁打から、9番・星川が右前打でチャンスを広げ、岡田、上田と連続タイムリーでさらに3点を加えた。2点差に迫られた8回には4番・浅野の右中間2塁打などで、さらに3点とダメを押しした。

立命館宇治は練習試合で好投する森本を先発させたが、先制点を許し、7回に4安打を集中された以外は、まずまずの投球で、公式戦初完投勝利を収めた。

立命館宇治は4回戦へ進出。7月18日(木)わかさスタジアム第2試合にベスト8進出を賭けて戦う。。



写真は完投勝利を収めた森本晃太郎(3年)

4月7日(水) 2回戦 対東山 わかさスタジアム

高木粘投、春のリベンジ投球

○ 立命館宇治 003 200 4=9

● 東 山 011 000 0=2 7回コールド

【立】高木-浅野

【東】小野、松本-北尾

▼3塁打 荒井、浅野(立)

▼2塁打 古賀、星川(立)、安田(東)

【寸評】 1点を先制された立命館宇治は3回、先頭の9番・星川が左翼線2塁打で出塁。犠打と四球で2死1、3塁とすると、4番・浅野が三遊間を割り同点。走者二人を置いて、5番・荒井が鮮やかに右中間3塁打を放って、2点を勝ち越した。

1点差とされた4回には2死から2走者を置いて、スイッチした右エースから、浅野がフェンス直撃の3塁打を放ち、2点を加算した。

7回には無死から浅野・右前打～荒井・左前打～6番古賀・左越2塁打～7番今野・左前打～8番高木・右前打～9番星川・一二塁間と6連打。最後は1番・中村が犠飛を打ち上げて7点差とした。

東山の左右のダブルエース、特に右エースは春の時点で144km、大会前には

149kmと評判であったが、何とか攻略した。

先発した高木は、春季大会ではこのスコアから追い上げられたが、この日は冷静に粘り抜き、先制点は許したものの、相手にビッグイニングを与えず、春の屈辱の投球をリベンジした。

立命館宇治は3回戦へ進出。7月14日(日)あやべ球場第1試合で、京都八幡と対戦する。



写真は3打数3安打と活躍した浅野彰久(2年)

大会登録メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	高木 要	3	桂	中学野球
2	捕	浅野 彰久	2	精華西	シニア 奈良
3	一	岡田 蒼司	2	彩都西 (大阪)	ボーイズ 箕面
4	二	今野 優斗	3	瓦木 (兵庫)	シニア 西宮
5	三	古賀 風地	3	立命館宇治	中学野球
6	遊	星川 健太	2	神久呂 (静岡)	ボーイズ 浜松
7	左	中村 滉成	3	石橋 (大阪)	シニア 豊中
8	中	荒井 豪太	2	都跡 (奈良)	シニア 奈良西
9	右	上田 龍一郎	3	三田学園 (兵庫)	ボーイズ 三田
10	投	森井 舜也	3	二名 (奈良)	ボーイズ 枚方
11	投	森本 晃太郎	3	下津第二 (和歌山)	シニア 有田
12	捕	吉村 仁	3	守口第一	ボーイズ 守口
13	捕	東部 光希	3	玉手 (大阪)	シニア 柏原
14	内	柳原 悠輝	3	寝屋川第一 (大阪)	ボーイズ 寝屋川
15	内	鈴木 康人	3	立命館宇治	中学野球
16	外	宮下 力	2	三郷 (奈良)	その他 レッドスターBBC
17	内	大住 秀太	2	城陽	シニア 京都木津川
18	外	谷 樹彦	3	天下茶屋 (大阪)	ボーイズ 堺中央
19	外	大島 涼永	3	樫原	ボーイズ 枚方
20	投	山崎 凱	3	立命館宇治	中学野球

2019年7月度のトピックス

7月29日

決勝帰路のバス内で、部長からの厳命



優勝後の歓喜の渦から解放され、バスに乗るや、石川部長からの提案が、「まずは全員、甲子園バージョンに散髪してもらおうか」。バスの中からすぐに理髪店を営む長谷川氏に電話。「おめでとうございます。はい。喜んで」とふたつ返事。保護者からも「是非お願いします」と承諾を得た。

長谷川氏は翌日、奥さんとお母さんを連れて、審判控え室で次々とバリカンでキレイな坊主頭。3年生は6月下旬に高校野球最後の丸坊主に挑み、大会が終わったにらすぐに坊主以外のスタイルにチャレンジするようだが、そんな姿勢そのものが気に入らない。

7月27日

決勝戦順延、大学室内で練習。OBも援助



決勝戦が台風接近に伴う大雨が予想されるため、10時半に順延が発表された。すでに部員は球場へ向かっており、そのまま球場へ乗り入れ、部員の入れ替えを行った後、柘野の立命館大学室内練習場に向かう組と、そのまま三室戸へ引き返す組に分かれた。

大学の室内練習場ではOBが練習後に残ってくれて、後輩たちのために打撃投手を務めてくれた。実は初戦の東山戦の前も、三室戸に1~4回生OB投手陣が勢揃いしてくれ、「仮想東山ダブルエース」を演じてくれた。先輩たちの心遣いに応えるのは明日だ。

7月6日

選手権京都大会開幕し、準優勝杯返還



第101回全国高等学校野球選手権京都大会の開会式が行われた。前年度準優勝として、2番目に行進し、式典では1年間、校内のメモリアルルームに飾られていた準優勝杯が、吉村仁主将から大会へ返還された。

開会式前にこの杯を見た部員は、杯にくくりつけられた房の中から興味深く歴代チーム名を探し、「立命館宇治の房が7つあります」と。この40年間、京都の中で断然多い準優勝7回。今年こそ、大きな旗を手にした。



甲子園での星稜戦翌日には新チームスタート、その次の日には練習試合が始まった。4月以降、秋のこの時期を見据えて、チーム作りを進めてきたが、やはり思い通りには行かない。夏休みの最終戦は選手権出場校の津田学園であったが、この間の投手陣の不安は払拭されないままであった。ストライクが先行せず、守りのリズムが悪いため、攻撃に集中できない。投手専門で練習してきた数名は全く機能していない現状に加え、野手にも誤算が生じた。また夏のメンバーにも上級生がいた頃の澆刺さがない。

終盤の集中打で逆転勝ちしたが、秋季大会2次戦まで2週間ちょっと。時間が必要だ。

2019年6月度のトピックス

6月22日

第101回大会の夏、抽選会へ

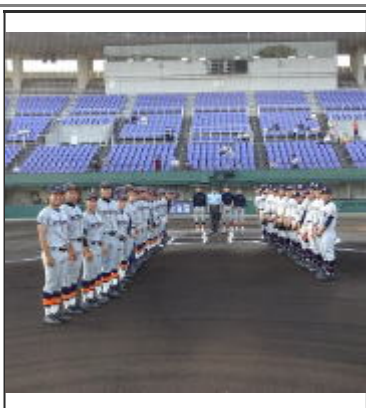


第101回全国高等学校野球選手権京都大会の組み合わせ抽選会が、15時より京都工学院高校で行われた。春季大会でベスト8だったため、シード校として挑んだが、周辺にシード校漏れの強豪校が集まるブロックとなり、初戦から身の引き締まる戦いとなる。

シード校のため、初戦は不戦勝だが、対戦相手は秋季大会ベスト8で21世紀枠京都府代表に選ばれた京都すばると、春季大会初戦で9-8と辛くも逃げきった東山の勝者。どちらが来ても、楽勝はあり得ず、もつれることは必至。いよいよ3年生の底力をみせる時が来た。

6月6日

恒例の3年生メモリアル試合、第3回立命杯



この時期の恒例となった3年生同士の対抗戦「立命杯」がわかさスタジアムでナイトゲームで行われた。出場資格は3年生のみで、申し合わせでなるべく試合に出られなかった部員が優先。連盟の審判員を配置し、関西学生野球の場内アナウンスも公式戦同様に行われた。

3年生部員の中には「この日が最後の晴れ舞台」と決めて、練習に励んできた部員もいる。そしてスタンドには上級生の保護者は勿論、OBも駆けつけてプレーする部員に声援を送った。

6月3日

教育実習2 34歳実習生は元セリーグ新人王



野球部OBではないが、野球関係がもう一人。上園啓史氏は東福岡高校OBで、野球部顧問の西田教諭の後輩。

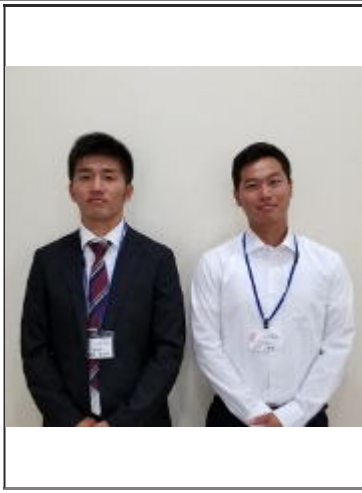
06年大学・社会人ドラフト3位で阪神タイガースへ入団。07年にセリーグ新人王に輝いた。その後、楽天を経て、14年で引退。プロ通算15勝14敗。その後、アニチュア野球指導資格回復を経て、今回、西田先輩を頼って、保健体育で教育実習となる。

勿論、連盟にもその旨を届け、実習期間中は現役

選手への指導アドバイスも可能。この機会を逃さない手はない。

6月3日

教育実習1 OB二人は大学野球部副主将



6月3日より教育実習が始まった。今年はOBが二人。写真右は18年11月に紹介した立命館大学副主将の池戸祐多OBで保健体育。

左は柴垣祐太郎OBで社会。柴垣OBは池戸OBより1学年上。3年夏の大会終了後に、他の部員と共に大学の練習に参加したが、当時の大学スタッフから投手としての実力に疑問符をつけられたため、「それなら内部推薦を諦めて、自力で大学へ行き、硬式野球を続ける」と、周囲の反対を押し切った。1浪したが、ライバル・関西学院大に合格。4回生となった今は、副主将を任されている。実習期間中は高校時代にお世話になった生徒寮から通う。

6月2日

練習試合が甲子園常連校シリーズへ



6月に入り、練習試合のゴールも見えてきた。5～6月はほぼ定期戦となっている甲子園常連校シリーズ。先月の高岡商、履正社に続き、天理、高知、金光大阪、敦賀気比、中京学院大中京など全て胸を借りなければならない強豪。

この日は天理親里球場で天理とのダブルが行われたが、第1試合では高木が3回までパーフェクトの立ち上がり。2点を先行したが終盤にわずかなミスから逆転された。第2試合は森井が春の不調を払拭する快投を演じ、天理打線を7回11奪三振で完封。ベンチ入りをかけてラストの試投であっただけに、何よりも本人が安堵しているかも。夏に向けて一筋の光がさした。

硬式野球部 TOP PAGEへ

2019年5月度のトピックス

2019年度 春季京都府高等学校野球大会 速報

5月19日

1.2年生初のB戦、裏方で支える3年生



公式戦が終わったこの週末から1.2年生のためのB戦が始まった。A戦メンバーである1.2年生を除外しての戦いで、ほぼ全員が高校野球デビューとなる。中学時代の未経験者はいないが、2日間采配した西田顧問は「野球の『や』の字にもなっていない」珍プレーが続出。この中から新チーム以降にAメンバーに引き上げられる者が何名出るか。

またこの日はAメンバーが兵庫県へ遠征したため、メンバーに入れなかった3年生数名が、1.2年生のB戦の裏方に徹してくれた。ある3年生部員の「試合に出る可能性がほぼないのに、親にバス代を払って貰ってAに帯同するよりも、グラウンドに残って、後輩の役に立ちたい」という言葉がきっかけとなったもので、数名は率先して塁審、得点板、SBO、グラウンド散水の係をするだけでなく、汚れた箇所の清掃、ネットの修繕、トイレの水回りの改修など、あちこちで活躍してくれた。



Aの試合からグラウンドに戻った里井監督が「まもなく中間テストだが、勉強したい3年生は休んでも良い」と提案したが、今日の残留メンバーも含めて、全員が「グラウンドで練習してから帰ります」と返答した。

5月14日

高校体育祭実施、部員たちが他を圧倒



5月14日、本校グラウンドで体育祭が行われた。開会式では吹奏楽部、チア部とともに全ブロック送るエールを送ることになっており、試合用ユニフォームに着替えた73名の全部員が大声で盛り上げた。

韋駄天走、今年はワンツーフィニッシュ

校内最速ランナーを決める韋駄天走は、過去2年間は井上光志郎OBが連続優勝していた。今年は各学年の予選を勝ち抜いた2名×3学年の合計6名で行われたが、今年は1位が中村滉成(写真右)と藤井走



日の3年生ふたりがワンツーフィニッシュ。二人で他学年代表を圧倒した。2年代表も岡田、細川とともに硬式野球部員。来年度も先輩に続けるか。

クラブ対抗は他は諦めムードの2位狙い??

クラブ対抗リレーは戦前から「今年の硬式野球部3年生にはかなわない。もう2位狙いしかない」とライバル・京都サンガユースが認めるほどの俊足揃い。韋駄天1.2位コンビ二加え、東部・柳原・今野・磯部・古賀など、学年でも注目の脚力の持ち主が揃っており、バトンミスさえなければというところであったが、第一走者・東部が首位で二走の柳原にバトンを渡す(写真)と、以降は差が広がるのみ。最後はアンカー中村が、2位サンガを20メートル近い差をつけて優勝した。

平成31年度

春季京都府高等学校野球大会 速報

2次戦

4月12日（日） 準々決勝 対乙訓 わかさスタジアム

乙訓上回る13安打も決定打不足

○	乙訓	200 042 000=8
●	立命館宇治	111 000 100=4
		【乙】林、斉藤-福井
		【立】高木-浅野
		▼本塁打 福井(乙)▼3塁打 田中(乙)
		▼2塁打 中村、高木、岡田、古賀(立)

【寸評】 5回の守りで2死2塁から相手4番との勝負を回避した立命館宇治は、左打者に追い込んでから左前へ運ばれて同点とされると、続く6番打者への失投が3点本塁打となり、結果的にこの回の4失点が明暗を分けた。

2点を先行された立命館宇治は1回には4番・浅野の犠牲フライで、2回には四死球で得た2死満塁に2番・今野の三遊間で同点に追いついた。3回には2死から6番・岡田の左越え2塁打の後、7番・古賀が追い込まれながらも中前へタイムリーを放ち逆転した。

先発した高木は前回登板時より進歩は示したが、決め球がなく、乙訓に12安打を浴びた。

攻撃は乙訓を上回る13安打を放ったが、逆転された6回に2死満塁、続く7回にも2死満塁、8.9回にも得点圏に走者を置きながら、決定打が出なかった。

今大会、夏のシード権獲得という最低限度の目標は達成したが、「夏への課題」が克服されることはなかった。東山で負傷した上田に代わり、宮下が公式戦初先発ながら3番で2安打したが、昨夏の準優勝では、井上、西成、大住、西など3年生が中心となり、チームを牽引したように、夏こそ3年生が中心となって活躍しなければ、展望は大きく開けない。

ラストサマーへ向けて、23名の3年生の意地に期待したい。



写真は3回、勝ち越しタイムリーを放った古賀風地(3年)

4月4日（土祝） 1回戦 対東山 峰山球場

薄氷の逃げ切り、辛くも8強

- 東 山 001 011 050=8
 - 立命館宇治 013 500 00x=9x
- 【東】松本、小野、所-北尾、吉田
【立】高木-浅野
- ▼2塁打 上田、荒井2(立)湊、橋本(東)

【寸評】 4回を終わって9-1。誰もがコールドゲームを読む終盤に、猛反撃に遭い、最後は1点差にまで追い上げられたが、辛くも逃げ切った。

立命館宇治は2回2死2塁から8番・高木の右前打で先制すると、3回には安打で出塁した星川を置いて、3番・上田が左翼線へ2塁打を放ち2点目。四球を挟み、5番・荒井が左中間を割って、さらに2点を加えた。4回には7番・古賀が右前打で出塁した後、2死から1番・中村、2番・今野、3番・上田とつなぎ、四球の4番・浅野で満塁にした後、またも荒井が走者一掃の左中間2塁打を放って、ビッグイニングを作った。

しかしこの日は8点差も盤石ではなかった。5～6回に1点ずつ返されると、8回には長短5安打を集中され、1点差に。結局9回で三者凡退がたったの一度。結局6四死球、被安打14と打たれ、3併殺で盛りたてたが、初戦の塔南戦からのディフェンスの不安は消えぬままに終わった。



写真は2本の2塁打で5打点の荒井豪太(2年)

登録メンバ

は1次戦からの変更						
背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム	
1	投	高木 要	3	桂	中学野球	
2	捕	浅野 彰久	2	精華西	シニア 奈良	
3	一	岡田 蒼司	2	彩都西 (大阪)	ボーイズ 箕面	
4	二	今野 優斗	3	瓦木 (兵庫)	シニア 西宮	
5	三	古賀 風地	3	立命館宇治	中学野球	
6	遊	星川 健太	2	神久呂 (静岡)	ボーイズ 浜松	
7	左	中村 滉成	3	石橋 (大阪)	シニア 豊中	
8	中	荒井 豪太	2	都跡 (奈良)	シニア 奈良西	
9	右	上田龍一郎	3	三田学園 (兵庫)	ボーイズ 三田	
10	投	森井 舜也	3	二名 (奈良)	ボーイズ 枚方	
11	投	山崎 凱	3	立命館宇治	中学野球	
12	捕	吉村 仁	3	守口第一	ボーイズ 守口	
13	投	森本 晃太郎	3	下津第二 (和歌山)	シニア 有田	
14	内	野寺 快	1	精華西	ボーイズ 滋賀南郷	
15	内	鈴木 康人	3	立命館宇治	中学野球	
16	外	曾谷 康平	2	大社 (兵庫)	シニア 北摂	
17	外	谷 樹彦	3	天下茶屋 (大阪)	ボーイズ 堺中央	
18	捕	東部 光希	3	玉手 (大阪)	シニア 柏原	
19	外	大島 涼永	3	樺原	ボーイズ 枚方	
20	内	宮下 力	2	三郷 (奈良)	その他 レッドスターBBC	

1次戦

4月20日(土) 決勝戦 対北桑田 立命館宇治三室戸G

序盤から長短15安打11得点、コールド

- 北 桑 田 000 10=1
- 立命館宇治 441 02=11x
 - 【北】安井-岩佐 (5回コールド)
 - 【立】高木-浅野
 - ▼3塁打 荒井(立)
 - ▼2塁打 上田2、中村、今野(立)

【寸評】 立命館宇治は初回2死から3番・上田の左中間2塁打と2四球で満塁とすると、6番・岡田が中前へ2点タイムリーを放ち先制。続く7番・古賀、8番・高木とタイムリーが続き、合計4点が刻まれた。2回には2死満塁から5番・荒井の右越3塁打と古賀のタイムリーでさらに4点。3回にはまたも荒井の中前タイムリーで9点目。5回には先頭の代打・中村、2番・今野、上田と3年生の三者連続2塁打で10点差とした。

先発した高木は今までのように立ち上がりから四球を出すことはなかったが、4回に相手主軸に中越2塁打を許し、その後2四球から中前へ運ばれ、1点を献上した。

立命館宇治は3年連続2次戦への進出を決めた。2次戦初戦は夏のシード権をかけて、東山と対戦する。



写真初回に先制タイムリーを放った岡田蒼司(2年)

4月14日(日) 2回戦 対同志社国際 立命館宇治三室戸G

序盤から着実に加点、5回コールド

- 同志社国際 000 00=0
- 立命館宇治 211 24=10x
 - 【同】 櫻井、玉田、石川-蓮井 (5回コールド)
 - 【立】 高木-浅野
 - ▼2塁打 上田、岡田(立)

【寸評】 立命館宇治は初回、内野ゴロと相手投手の暴投で2点を先取すると、2回以降、得点圏に走者を置いて、着実に加点。5回には3四球と2安打で4点を取り、5回コールドゲームが成立した。

投手は昨日に続いて、高木。初回2、2回1、3回1と序盤3回で4四球と立ち上がりの不安は依然続き、被安打は0ながら、すっきりしない勝ちとなった。

秋にもコールド勝ちしている相手だが、「どう転んでも負けるわけがない」という雰囲気、ベンチにも蔓延し、声も出さずに、「なんとなく試合をしている」という空気が蔓延。良い雰囲気で試合しているとは言いがたかった。



写真は公式戦初先発、初打席で安打した曾谷康平(2年)

4月13日(土) 1回戦 対塔南 立命館宇治三室戸G

終盤、2年生パワーで逆転

- 塔 南 000 120 000=3
 - 立命館宇治 001 000 31x=5x
- 【塔】北崎-山本
【立】高木-浅野
- ▼本塁打 浅野(立)
 - ▼3塁打 古賀、荒井(立)
 - ▼2塁打 近藤(塔)、浅野(龍)

【寸評】 立命館宇治は2点をリードされた7回裏の攻撃で、先頭の4番・浅野が左中間最深部へ本塁打を放ち、1点差とすると、相手投手の初の四死球と失策で1死満塁となり、9番・星川がフルカウントから左翼線へタイムリーを放ち同点。続く1番・今野の犠牲フライで勝ち越した。8回には1死から浅野が左越2塁打、2死から6番・荒井が左越3塁打を放ち、貴重な追加点を挙げた。

昨夏にブレイクした塔南の好投手を試合の終盤に捕らえた逆転劇は見事であったが、チームの6安打中、5安打が2年生で、次戦からの3年生の奮起を期待したい。

試合は3回、右翼線3塁打の古賀を置いて、今野がスクイズを決めて先制し、試合の主導権を握るかに思えた。しかし、先発・高木は5回までに7四死球と不安定感は払拭できなかった。6回以降は無四球の投球を展開しただけに、残念な前半であった。



写真は7回同点タイムリーを放った星川健太(2年)

登録メンバー

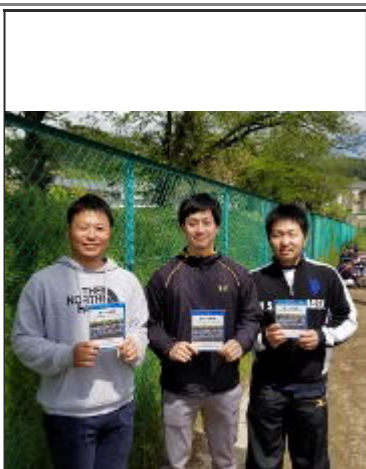
背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	高木 要	3	桂	中学野球
2	捕	浅野 彰久	2	精華西	シニア 奈良
3	一	岡田 蒼司	2	彩都西 (大阪)	ボーイズ 箕面
4	二	今野 優斗	3	瓦木 (兵庫)	シニア 西宮
5	三	古賀 風地	3	立命館宇治	中学野球
6	遊	星川 健太	2	神久呂 (静岡)	ボーイズ 浜松
7	左	中村 滉成	3	石橋 (大阪)	シニア 豊中
8	中	荒井 豪太	2	都跡 (奈良)	シニア 奈良西
9	右	上田 龍一郎	3	三田学園 (兵庫)	ボーイズ 三田
10	投	森井 舜也	3	二名 (奈良)	ボーイズ 枚方
11	投	吉田 愁	2	枚岡 (大阪)	その他 レッドスターBBC
12	捕	吉村 仁	3	守口第一	ボーイズ 守口
13	投	森本 晃太郎	3	下津第二 (和歌山)	シニア 有田
14	内	大住 秀太	2	城陽	シニア 京都木津川
15	内	鈴木 康人	3	立命館宇治	中学野球
16	外	曾谷 康平	2	大社 (兵庫)	シニア 北摂
17	外	谷 樹彦	3	天下茶屋 (大阪)	ボーイズ 堺中央
18	捕	東部 光希	3	玉手 (大阪)	シニア 柏原
19	内	福塚 真広	3	広野	ボーイズ 京田辺
20	内	宮下 力	2	三郷 (奈良)	その他 レッドスターBBC

[硬式野球部 TOP PAGE△](#)

2019年4月度のトピックス

4月27日

懐かしいOBがHPを見て、グラウンドへ



懐かしいOBが時間をやり繰りして、グラウンドを訪れてくれた。第一声が「私のこと、覚えてくれていますか??」。勿論、忘れるわけがない。写真の左から井上彬OB、宮本剛史OB、末永大将OB。井上OBと末永OBは卯瀧・里井両氏に3年の4月から4ヶ月間指導を受けた。

今回グラウンドを訪れてくれたのは「HPで石川先生が部長を降りられると知って」とのこと。嬉しい限りである。3人とも当時のグラウンドとは見違える環境に驚き、今の現役を羨ましく思えたよう。彼らはセカンドユニフォームや何から何までが新鮮に感じられたようで、「夏には石川先生の最後のベンチ入り姿を見に行きます」という言葉を残して、グラウンドを後にした。

4月5日

卯瀧前監督率いる初芝橋本と練習試合



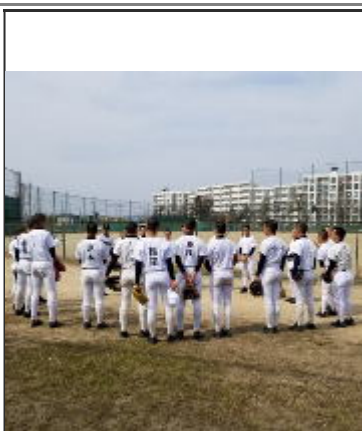
1月から和歌山県の初芝橋本高校の監督をしている卯瀧逸夫氏が徐々に三室戸グラウンドに練習試合に訪れた。縦縞の試合用ユニフォームをスマートに着こなし、選りすぐりのメンバーを率いて、2試合。まだまだ「卯瀧野球」は浸透していないかと思いきや、第1試合は完封負け。第2試合もローズコアの展開となり、何とか勝利したが。過去に北嵯峨、鳥羽、立命館宇治と甲子園に導いた手腕は健在で、4校目での甲子園となれば、現在麗沢大学野球部でコーチを務め、千葉県で県立4校を甲子園に導いた名将・蒲原弘幸氏と並ぶ日も近いのではと思わせた。

硬式野球部 TOP PAGEへ

2019年3月度のトピックス

3月27日

新入生が27日より練習参加



例年3月25日より練習に参加している新入生だが、今年は練習試合、しかもA.B編成の試合が続いているため、しっかりとお世話できる27日より参加となった。現段階で24名の事前掌握だが、春休みの通いが不可能な遠方生徒もあり、この日は21名の参加となった。

部室や割り当てられたロッカーの使い方、グラウンドでのルールを説明された後、先輩の指導でウォーミングアップから学び、試合見学も。練習試合に出られるのは入学式以降だが、上級生の層は決して厚いとは言えず、戦力と期待される者もいるが、まずは基本からである。

3月24日

春の練習試合、前半の山場で1勝1分



3月10日から始まった練習試合も、今日でほぼ半数。秋にはまだまだ非力であった下級生が台頭し、上級生を追い抜く勢いだが、本日の練習試合は前半戦の山場。神戸国際大付属と県立岐阜商業との変則ダブルで、共に県内ベスト4以上の実力校。

神戸国際大附では高木が先発し、終盤に試合は動いた。9回2死まで1点勝っていたが、最後の最後に守備が乱れて引き分けた。

県立岐阜商では森井が先発。初回到に相手守備の乱れに乗じてビッグイニングを作り、少し追い上げられたが、8回7点差コールドで勝った。

3月21日

教え子たちに感謝し、未来の部員に送る



101回大会で部長職を退くことを表明している石川部長は、この冬に長年蓄積したVHSテープをデジタル化し、全試合を見直して、「感動の名場面」「記憶に残る場面」をダイジェストし、105分に編集し、「夏への挑戦 Challenge for Summer」と題し、ブルーレイに焼き付けた。

あくまでも私的な観点から編集されており、必要に応じて部員には見せるが、この回の編集にあたり、試合テープを提供いただいた保護者OBには郵送された。

この40年間で京都最多の準優勝7回。その記録をストップし、優勝旗を手にする事を期待する。

3月21日

センバツ横浜が三室戸Gで半日練習



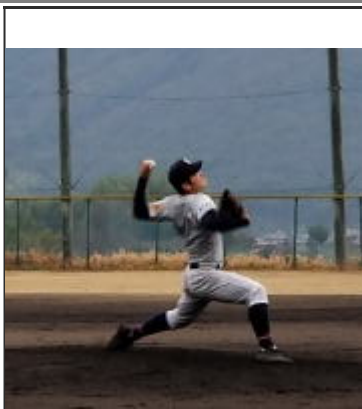
明後日から開幕するセンバツ大会に出場する横浜高校が、三室戸グラウンドで朝から半日練習を行った。立命館宇治が関東遠征の際に練習試合でお世話になり、横浜・平田監督と里井監督が同学年で、年末の関東での同期会で同席した縁から、実現した。

この日は午後から京都翔英とのB戦が組まれていたが、どちらの選手も横浜の練習に釘付け。フリー打撃では木製バットで低い弾道でフェンス際まで運び、投球練習では150キロ左腕が見たこともないようなキレで投げ込んだ。

また練習後には全員が駆け足で見事な後片付け。ここにも「一流」を見た。

3月10日

練習試合スタート、Aチームは完勝発進



練習試合は8日より解禁になっているが、昨日は高校卒業式を優先したため、スタートは本日となった。Aチームはアウェイで岡山県の強豪・関西と。プロ注目の4選手を擁する打線にどう挑むか注目されたが、序盤からこちらの打線が爆発し、投げては高木が強力打線を6回被安打4の1失点と好投し、16-2で完勝した。

スタートに辺り、「どちらかといえば守備重視のオーダーを組んだ」(里井監督)だが、秋の終盤にその片鱗を見せていた新戦力も結果を出し、まずまずの結果となった。

3月8日

卒業式を明日に控えた3年生が挨拶に



高校卒業式を明日の控えた3年生が、最後の挨拶に三室戸グラウンドへ挨拶に訪れた。石川部長、里井監督から卒業生へお祝いのお言葉述べた後、現役部員を代表して吉村主将が挨拶し、最後に卒業生を代表して井上前主将が「自分たちは下級生に力を借りなければ試合が出来なかったが、夏の準優勝もベンチに入れなかった同級生が裏方に回り、スタンドから応援してくれたおかげ」と述べた。

現役部員からは恒例の記念品と色紙が贈られ、最後に全員で記念撮影を行った。

[硬式野球部 TOP PAGE](#) ^

2019年2月度のトピックス

2月13日

高校入試合格発表、22名が入部確認



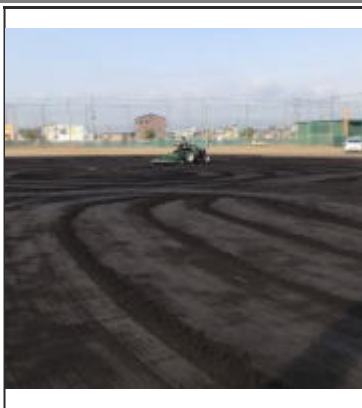
高校入試の合格発表が15時から行われ、15時40分から入部説明会が行われた。この日の説明会には合計24名が参加し、うち22名がチームグッズの採寸と注文を行った。

高校の練習に参加できるのは連盟規定では3月25日からだが、今年は練習試合の関係で新入生の初参加日を3月27日と設定。

この記事を見て「自分も....」と連絡してくる者や、入学式後に入部してくる者もあり、上級生並みの20数名に落ち着きそうだ。

2月13日

三室戸グラウンドを本格的に整備



グラウンドは生きものである。毎日、部員たちがトンボをかけて整備しても、歪みは出てくる。また土は年数を経ると痩せ細り、近年は内野の一部から下地の砂利が顔を出す箇所もあった。

今回は里井監督の知り合いからたどり、「土さえあれば整地します」という方を紹介いただき、この日、重機を運んでグラウンドのメンテナンスを行っていただいた。「トラック2台分もあれば」ということで、前日には甲子園の土でおなじみの阪神園芸から黒土を搬入して貰い、この日の動きとなった。

2月3日

龍谷大平安で春季大会抽選会



インフルエンザ拡大による異例の活動停止が続く中、吉村主将が石川部長と春季大会抽選会に挑んだ。会場には1時間以上前に到着し、一番乗り。そして一番に受付を済ませ、順序抽選に。50数枚の番号が入る札の中から、引いたのは1番であった。

本抽選ではシードの京都国際、京都外大西に続いて本抽選。後はどこの学校がうちの横を引き当てるかだったが、半ばを過ぎた頃に塔南が引き当てた。

2月2日

緊急事態、インフルエンザ拡大で活動停止



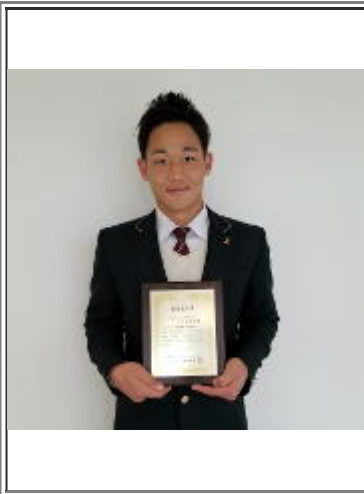
今週に入り、「インフルエンザが二人出たと思ったら」、2～3日の間に硬式野球部内で一気に拡大。水曜日の練習では1.2年の48名で練習に参加できたのは半分以下の22名。中には所属クラスが学級閉鎖のために健康体ながらクラブを休まざるを得ない部員も含まれてるが、罹患者は最大時で13名。狭い部室での更衣や食事でますます広がる可能性もあり、、、学校保健室から「明確な規定はないが、活動停止を含めた英断を」と言われ、当面1月28日～2月1日の2日間を活動停止とした。2日の朝に再度情報収集を行ったが、依然として数字は変わらず、さらに2日間の活動停止延長を決めた。過去にインフルエンザが蔓延したことはあるが、ここまで拡大したのは初めてである。

硬式野球部 [TOP PAGE](#) ^

2019年1月度のトピックス

1月18日

井上光志郎前主将が連盟から表彰



18日午後から京都外大会議室で京都府高野連報告総会が行われ、井上前主将が連盟から優秀選手賞の表彰を受けた。対象は秋春夏の公式戦で準優勝以上のチームから推薦された一人。本校は春夏ともに準優勝で、夏の大会終了後、井上前主将を連盟に推薦していた。

立命館宇治からは3年ぶり8人目の表彰。この年度は準優勝以上の成績を上げたのは乙訓、京都翔英、龍谷大平安と4チーム。日本学生野球協会から表彰を受けた龍谷大平安・松田前主将、21世紀枠の京都すばる、甲子園100勝の龍谷大平安が表彰された。

1月12日

3年生が卒業記念品に時計を寄贈



3年生の部員と保護者が卒業記念品を残したいとスタッフに相談。グラウンドにないものとして「時計」をお願いし、この日の設置となった。

屋外時計としては部員のクラブハウスの入り口上に時計が掛けられているが、雨よけ用の屋根を取り付けたため、非常に見つらく、グラウンドのどこからでも見えるようにと、今回はセンター後方、スコアボード横に設置された。今は電波時計が主流であり、もちろんこの時計も狂うことはないとのこと。大切にに使わせていただく。

1月6日

恒例の炊き出し。温かい昼食に大満足



ここ数年、新年の全体練習開始後の最初の日曜日が、保護者会主催の炊き出しとなっている。シーズンオフは練習試合もなく、保護者もグラウンドへ来る機会は少なくなりがちだが、この企画により、多くの保護者に集まっていただき、新年の挨拶もかねようというもの。

この日も具だくさんの豚汁。朝から気温が上がらない中での練習だが、部員も持参の弁当に加え、ご満悦。すぐさまおかわりの列ができた。ぜんざいやきなこ餅などのデザートも準備され、午後からの練

習の大きなパワーとなった。

[硬式野球部 TOP PAGEへ](#)